

— 告 白 —

KIT
キャンパス
レポート 69
文・杉村裕之



島光輝 (しま こうき)
金沢工業大学
情報フロンティア学部
メディア情報学科四年
石川県立七尾高等学校出身

お笑いの殿堂に立つ未来へ 笑いを探し、ライブで研鑽

進学校で文武両道の高校球児だった。ただ、負けて悔しさをかみ締めたのは、大学二年次に立ち上げたお笑いサークルのライブで、仲間よりうけなかった時が初めてだったという。

「小さな頃からバラエティ番組が大好きで、特に漫才がお気に入りでした。いま、それを追って真剣に将来を考えるからこそ、そんな感情が湧いてきたのでしょうか」

客観的に自己分析するクレバーな男だ。国立大学標準額の授業料との差額が給付されるKITスカラシップフェローを得ているのも、優秀な学業成績とアクティブな学生生活を送る証しといえる。

一年次から課外教育活動プロジェクト「Circuitプロジェクト」に所属し、ウェブサービスの開発や

マーケティング、マネジメントの経験を積んできた。提携校の留学生を受け入れる国際交流事業でもサポート役として活躍する。

能登半島地震や東日本大震災など被災地の学生を対象にしたSU-GAI奨学金プログラム「夏季英語・リーダーシップ研修」にも選ばれ、昨年八月、米国ジョージ・ワシントン大学を訪れた。学生同士の交流や授業、各分野の専門家の講義を通して、「自分の好きな道で仕事をする喜びと誇りを教えられ、決心が固まりました」。

帰国後、若手漫才師の登竜門であるM-1グランプリに、コンビを組む同級生と挑戦した。緊張のあまり一番の笑わせどころでセリフが飛び、「頭が真っ白になった」と、無念の一回戦敗退。出場者は毎年、一万組を超え、その中からファイナリストへ駆け上がっていくには、抜きん出た実力と運も味方になければなるまい。熾烈な競争

の世界に、私なら足がすくむ。

どうすれば人を笑わせられるか。島さんは日々、脳細胞をフル回転させてネタを探し、毎月の学内ライブで客席の反応をうかがい研鑽する。卒業研究テーマも「面白いって何だろう？」で、セリフの音量や掛けあいの間ひとつで生き物のように変わる漫才を、科学的に分析してみたいと話す。

筆者の体験では、お笑いの殿堂・なんばグランド花月へ行くと、劇場を震わすほどの爆笑に引きずりこまれる。百戦錬磨のプロの技だ。そして、この号が書店に並ぶ頃、大阪の街は全国高校野球選手権大会の熱気に覆われている。

聖地の甲子園には縁のなかった彼だが、M-1グランプリでいつの日か頂点を、「栄冠は君に輝く」と、エールを贈る。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七二
電話番号(076)248-1100